



1887年創部。1924年に全米初優勝以来、119シーズンで栄冠に輝くこと11度。全米最優秀選手賞ハイズマン杯7名。カレッジ名誉の殿堂入りメンバー48名。08年現在プロフットNFLドラフト指名463名(在籍メンバー48名)などの米国大学フットボール記録を誇る、名門ノートルダム大学ファイティング・アイリッシュ。そのカレッジ・フットボールの象徴が、日本アメリカンフットボール誕生75周年の記念事業のラブ・コールに呼応して、プロNFL経験者を含めた優秀若手卒業生メンバー60名による「チーム・レジェンズ」を特別に編成して、日本代表チームと対戦する夢の日米戦が7月25日、東京ドームで実現する。そのレジェンズ第一次メンバー50名が、4月19日に同大テスト・セッションを経て決定。伝説のコーチ、ルー・ホルツ監督率いるレジェンズの全貌を現地に追った。

ノートルダム・ジャパン・ボウル2009

レジェンズ始動

NCAA (全米大学体育協会) 最多の7名のハイズマン杯受賞者を輩出しているノートルダム大学ファイティング・アイリッシュ。同大スポーツ・ホール・オブ・フェイム(モングラム・ルーム)の一角に陳列されているトロフィーは、格別の迫力を放っている



4月18日(土)、ノートルダム大学キャンパス内にあるラバー・ブラクティス・フィールドに新旧86名のファイティング・アイリッシュOBが集い、ノートルダム・フットボール・レジェンズのロースター入りのためのテスト・セッションが開催された。「日本のフットボールは通常の米国人の理解を超えた素晴らしい活動を、75年の歴史の中で培っている。2月に訪日した折の会見では、チームワークを学び、利己にならずに団結心を養うためにタッチフットボールを初等教育の体育授業で取り組むことを検討していることも発表されていた。我々はノートルダム大学を代表して日本フットボール界の75周年を祝い、チーム・ジャパンに対し全力で臨める体制を固めねばならないだ」とルー・ホルツ監督(72歳・中央)は力説していた



ノートルダム大学レジェンズ(ルー・ホルツ監督)が動き始めた。
4月18日(土)にインディアナ州サウスベンドにあるノートルダム大学内にあるフットボール練習場ラバー・ブラクティス・コンプレックスにて、来日選手選考のためのテスト・セッションが開催され、60名で構成されるロースターのうちの50名が決定した。追加10名は、プロフットNFLのFA(自由契約選手)契約の選から漏れたメンバーなどを新たな候補に入れながら、補欠リスト入りとなった11名と秤にかけられて最終決定される。

全米の各地から母校に戻ってきた元ファイティング・アイリッシュは86名、先にロースター入り発表されていた有力卒業生メンバー14名のうちの6名も、セッションに顔を揃える熱の入りようだった。

「07年W杯川崎大会の決勝戦にてCNC A I 部 A A チーム中心で組織されたオールスター・チームに対し、オール・ジャパンは延長戦の末のFG失敗で敗れたが、総攻撃獲得距離比較ではUSチームを上回る力を発揮した。ジャパン・チームのスピード、戦略、技術は、極めて高いレベルを誇っている。我々は彼らの75周年記念事業に声掛

けされたが、まったく侮れない対戦相手になるだろう」
午前8時。セッション開始直前のハドルで、ホルツ監督独特のベップ・トークが始まった。
「すでにプレー・ブックも準備した。この大会を素晴らしい経験にするため、人々にノートルダムの素晴らしさを伝えるために、私と我々コーチ陣は、激しい取り組みで臨む」

テスト・セッション参加選手は昨年まで現役として活躍したメンバーに始まり、最年長は現役時代にジョー・モンタナのターゲットで、79歳、87年NFLワシントン、シカゴ、バッファローで活躍した51歳のクリス・ヘインズ(現在はシカゴのキャサリン・クック校体育教諭)までと、実にバラエティに富んだメンバーが揃った。

関係者によれば、「平均年齢は、ほぼ30歳前」とのことだったが、ホルツ監督が88年に同大史上二度目の全米優勝を果たした当時のスタートQBトニー・ライス(41歳・87歳)や、同大史上最高4813ヤードの通算ラッシング記録を誇るオートリー・デンソン(32歳・95歳)や、94年・03年までNFLマイアミで殿堂入りQBダン・マリノにスナップを送り続けたCチーム・ル



かつてのチームメイトとの再会に、抱き合って健闘をたたえ合う姿が、フィールドのあちこちで見られた



87年ハイスマン杯受賞、88~04年までNFLで活躍したティム・ブラウン(42歳)がWRコーチに就任し、テスト・セッションに姿を現した。愛弟子の来訪にホルツ監督もご満悦だった



90～91年にNDでホルツ・コーチの守備コーディネーターを務め、36年カレッジ一筋11校で一貫して守備コーチとしてわたり歩いて12ボウル出場、07年秋終盤テキサスA&Mヘッドコーチを務めたゲイ・ダーネル・コーチ(60歳)がLB担当兼守備コーディネーターに就任した



ノートルダム大学のスポーツ・スペシャル・イベント・ディレクターのビル・リーガン元コーチが、テスト・セッションを補佐



ビル・ルイス(68歳)DBコーチは63年からの32年間に9大で13ボウル出場。89～91年に東カロライナ大、92～94年ジョージア工科大でヘッドコーチを務めた後に、96～04年はNFLマイアミでニックル・パッケージを指揮し、05年にNDアシスタントヘッド就任。昨年勇退した大ベテランだ



トニー・ヤロヴィッチOLコーチ(68歳)は90年までホルツのアシスタントを務め、現在はND体育局長補佐。かつての教え子でロースター入りしたCティム・ルディ(83番)は、94年NFLドラフト2巡でマイアミ入りして01年プロボウル出場、殿堂入りQBダン・マリーノとコンビを組んだ強者だ



ND93年卒業後、95年までNFLワシントン、96年タンパベイRBとして活躍したレジー・ブックス(38歳)は、現役はりのステップでRB勢にデモンストレーション。現職はモノグラム・クラブ・マネージャーとして、フットボール卒業生との関係維持・強化に努めている



クリス・ゾーリッチDLコーチ(40歳)も88年全米優勝時にNTとして活躍したホルツ・コーチの秘蔵っ子の一人。90年全米大学最優秀ライン賞のロンバルディ賞受賞。91年NFLドラフト2巡でシカゴ入りした後、97年までワシントンで活躍した実力派だった



88年にホルツ監督下で11度目の全米優勝を勝ち取った当時のスタートQBトニー・ライス(41歳)は、年齢を感じさせないスムーズな動きが印象的だった。91年CFLサスカチュワン、92年WFLAバルセロナで活躍した。現在は母校近くに在住し、NDブルー&ゴールド・ショップでアパレルの販売業を営んでいる

「生涯最高のタイムだ。体重が落ちてくるからか、現役の時より速い」
5秒ジャストで走り抜けて興奮気味だったのは、93～96年に攻守ラインとして活躍し、今回攻撃ラインとしてエントリーしたデイヴィッド・クイスト。体重が落ちてきているとはいえ、いずれも190センチ120キロ超級揃いの巨漢たちの全力疾走する姿を見ながら、ホルツ監督は「ゲッドシエイブは、ノートルダム・スピリッツの表れの証だ」としていた。

約2時間でプログラムされたテスト・トレーニング・セッションを終えて、ラバー・ブラクテイル・コンプレックスを出ると、サインボールを持ったファンの姿が数多く見られた。

午後1時30分からノートルダム大スタジアムで開催されるファイティング・アイリッシュの春季練習最終日恒例の「ブルー&ゴールド・ゲーム」を観るために、キャンパス内のいたるところではすでにテール・ゲート・パーティが開始されていたが、テスト・トレーニング・セッションに参加した往年の選手らは、彼らにとって永遠のスターたちであることが伝わってきた。

その「ブルー&ゴールド・ゲーム」に先だって12時15分からノートルダム・スタジアムで行われたフラッグ・フットボール大会には、テスト・トレーニング・セッションに参加した大半のメンバーが会場にフィールドを走り回るタフさを見せつけた。

そのフラッグ・フットゲームの残り3分。テスト・トレーニング・セッション参加者の一人だったS.F.アジャニ・サンダース(96～99年)が、80ヤード以上のインターセプト・リターンTDをあげてチームを20対14の勝利に導き、文句無し MVPに選出。テキサス州ノースブルック高で数学科の教諭を務めながら



コンセンサス・オールアメリカンのCBとして活躍して96年NFLドラフト1巡27位指名でバッファロー入り。03年までシンシナティで活躍したジェフ・パレスは、現役時代を彷彿とさせる動きで、注目の的だった。現在はインディアナ州フィッシャーズ高でコーチを務めている

07年メンバーでNFLバッファローに08年FA契約したもののカットされたLBジョー・ブロックリントン(25歳)は、188センチ、109キロの体躯を維持していた



ND在籍時にDEとFBをプレーしたディーン・ライトル(93年卒)は190センチのサイズで40ヤード走4秒5をマークした



168センチ、74キロのサイズで02年までウオーク・オン・アスリートとして在籍し、11回78ヤードの通算ランだったRBティム・オニールもセッションに参加し、ワン・モア・ゲームに挑戦。補欠リスト入りした。自伝「EVERY PLAY EVERY DAY」は、ファイティング・アイリッシュ・ファンなら誰もが知る著書だ



06年に50パントで平均45.4ヤード(最長62ヤード)の記録を残してオールアメリカン候補だったPジェフリー・ブライス(25歳)。5月にNFLシカゴのFAトライアウトに挑戦したばかりの本格派だ



最高齢参加者はQBジョー・モンタナのチームメイトで、NFLワシントン、シカゴ、バッファローで87年まで活躍した51歳のWRクリス・ヘインズ(79年卒)だった

「実は攻撃ラインが少し心配だったんだが、皆それぞれ、この日のためにコンディションを整えてきているがすぐに分かった」
ホルツ監督が満足そうな笑みを浮かべたのは、40ヤード走の計測が始まったあたりからだ。急な運動でハムストリングなどを痛める懸念があることから、40ヤード走自体をテスト・トレーニングのメニューから外す見込みだったのを、直前になってホルツ監督が方針変更を決定したのもだった。結果は良好だった。

「ディーン・ライトルは、その同期でコンセンサス・オールアメリカンCBとして活躍した後にドラフト1巡27位指名でバッファロー入り、98～01年インディアナポリス、02～03年シンシナティで活躍したジェフ・パレスらのようなNFL卒業生のビッグ・ネームがずらり顔を揃える壮観ぶりだった。ウォーム・アップを経て開始されたテスト・トレーニングは、見慣れたスピード、アジリティ、反応、コンディショニングなどの状態を確認するための一般的なメニューに終始した。攻守両ポジションごとに分かれた3つのセッションをホルツ監督が見て回る姿は、かつて氏がファイティング・アイリッシュを率いていた頃そのままの姿だった。

「ホルツ監督が満足そうな笑みを浮かべたのは、40ヤード走の計測が始まったあたりからだ。急な運動でハムストリングなどを痛める懸念があることから、40ヤード走自体をテスト・トレーニングのメニューから外す見込みだったのを、直前になってホルツ監督が方針変更を決定したのもだった。結果は良好だった。」



ルーキー・スタートQBとなった07年に3勝9敗、昨08年7勝6敗で、今季その真価が問われることになる7ジミー・クローセンだが、17回投げたパスは8回成功70ヤードと不振。アイリッシュ・ファンをヤキモキさせている



NYジャイアンツDTとして活躍中のジャスティン・タグが、ブルー&ゴールド・ゲーム名譽コーチとして母校に戻ってきた



三番手QBながら伝説のジョー・モンタナの長男ネイトの登場に、ファンが喝采を送る。僅か2回のパスだったが、2回とも成功させて51ヤード獲得。今季2年生

午後1時30分。チャーリー・ワイズ監督率いる09年ファイティング・アイリッシュの春季練習総決算「ブルー&ゴールド・ゲーム」は、ノートルダム大学スタジアムで31104名のファンが見守る中で開始された。観戦チケットは15ドル(18歳以下は10ドル、3歳以下は無料)

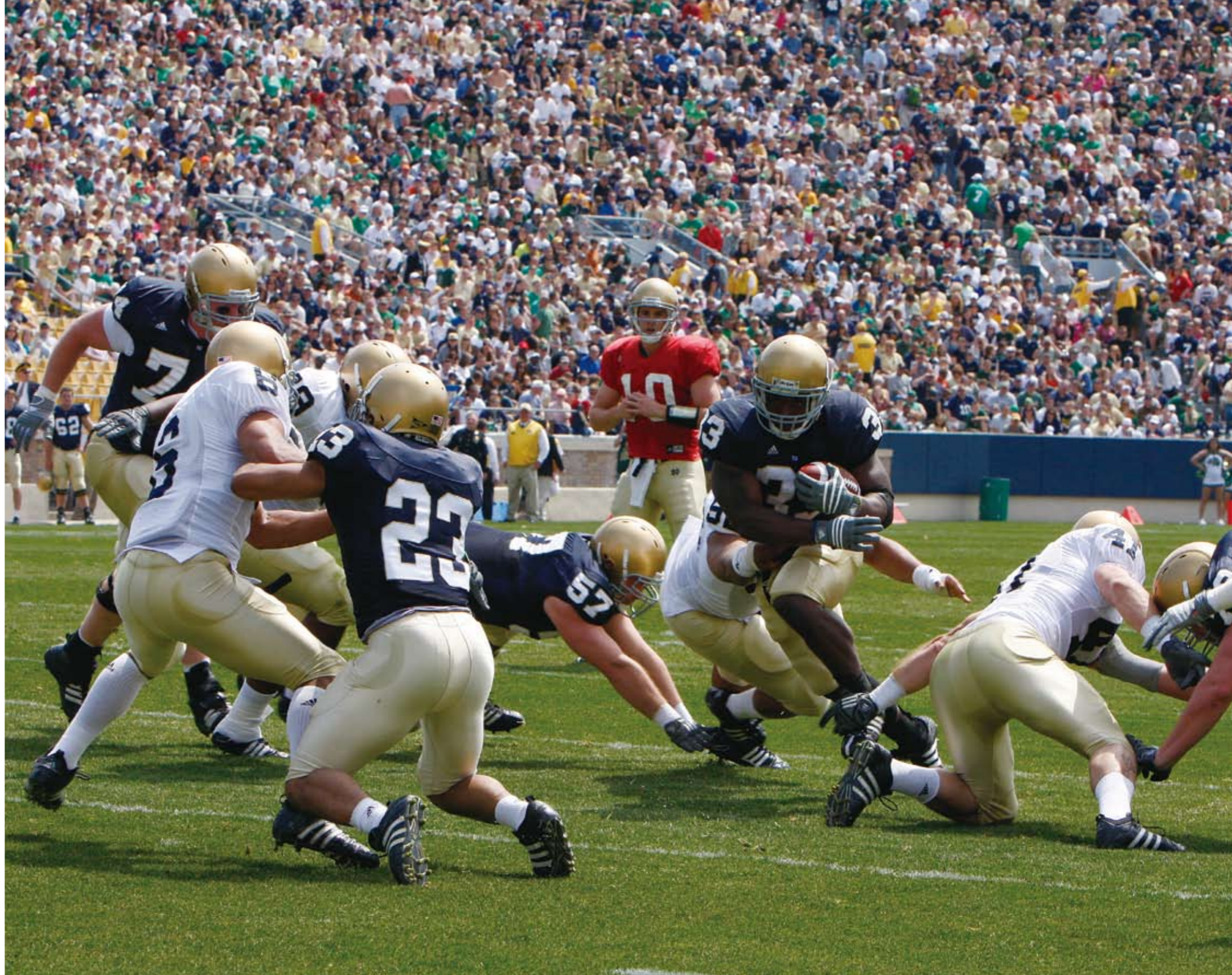


ネイトの成長を觀に、スタンドには「モンタナ一家」の姿が。隣はジェニファー夫人。パニックにならないよう私服ガードマンが周囲を固めていた。前方に座しているのが次男ニコラス(カリフォルニア州オーククリスチャン高QB)で、来季ノートルダム進学が噂されている

そのブルー&ゴールド・ゲームが終了し、スタジアムの喧嘩が一段落した午後6時からスタジアムに隣接するモノグラム・ホールでデイナー・パーティーが行われ、そのパーティー後にノートルダム・ジャパン・ボウルに参戦するレジェンド・チーム・ロースター50名がモノグラム・ホールの扉に張り出された。

就任直後の2シーズンに19勝6敗の好スタートを切りながら、過去2シーズンは10勝15敗と大きく負け越し。名門復活にかけられた期待が大きかっただけに、2015年までの契約とはいえず、今季不振が続けばその座も危ういと噂さえ出始めている。

ファイティング・アイリッシュのモノグラム・メンバー(卒業生クラブ)との関係を良好に保つために、ブルー&ゴールド・ゲームにNFLニューオーリンズ・ジャイアンツで活躍中のDTジャスティン・タグク(01/04年・05年ドラフト3巡)らをオナーリー・コーチとして招くなどのアイデアが盛り込まれていたが、肝心のブルー&ゴールド・ゲームの出来栄への迫力不足は否めな



ターからノートルダム大ヘッドコーチに転身したチャーリー・ワイズ監督にとっては、今季はまさに正念場だ。

「卒業して間もない22、23歳の若手選手に始まって、ライスのように40歳以上のメンバーまでが集ったチームとなったが、誰もがチーム・スピリッツに溢れていたのを確認できたことが何よりだった」とホルツ監督。セッション参加者の中にはパーソナル・トレーナーを雇って、この日のパフォーマンスにベスト・コンディションを心掛けたメンバーもいるほど、「ワン・モア・ゲーム」に燃えたメンバー揃いだっただけで、「ノートルダム・ジャパン・ボウル」という素晴らしい機会に向けて、できうる限り全力で臨むことを約束する」と上々の成果に意気揚々とした口調だった。

05年にNFLニューイングランド・ペイトリオッツの攻撃コーディネイター



ブルー&ゴールド・ゲームに先立って開催された卒業生メンバーによるフラッグ・フットボール・ゲーム。残り3分、SFアジャニ・サンダーズのインターセプト・リターンTDでゴールド・チームが20対14で勝利した

ノートルダム・フットボール・レジェンズ第一次メンバー 50名 (4月19日発表)

【攻撃】 囲みは2月発表時点でレジェンズ入りしたメンバー

| | | |
|----|---------------|-------------------------------|
| C | トーマス・ビメンダーファー | 新卒。WOから08年スタートCへ。195/136 |
| C | ティム・ルディ | 94年ドラフト2巡マイアミ入り。03年までプレー |
| OG | ジェレミー・エイカーズ | 96年オールアメリカ。99年NFLライン参加 |
| OG | デイヴィッド・クイスト | 96年攻撃ラインで出場 |
| OT | キャセイ・ロビン | 01年4年時控Tで11試合出場。201/136 |
| OG | ジェームズ・ベント | 05年4年時控Gで7試合出場。188/120 |
| OL | ブライアン・マラス | 03~05年スタートの実力派。198/130 |
| OG | ダリン・ミッチェル | 04年スタートG、トラップBLK得意。190/131 |
| OG | ボブ・モートン | 03年2年時よりスタート。C兼任可。193/135 |
| OL | ジェレミー・ナウ | 元DE。イーグルスFAカット。193/102 |
| OL | エド・オコーネル | 02年WでLBに。今回OLでトライアウト。190/96 |
| OL | グレッグ・ポーリー | 02、03年控DL出場。攻守可。198/133 |
| OL | ジェフ・トンプソン | 03年3年時に守備から転向。C/G可。193/129 |
| QB | トニー・ライス | 88年全米優勝QB。89年ハイズマン投票4位 |
| RB | リー・ベクトン | 94年コトンボウルMVP、シュライオールスター |
| RB | オードリー・デンソン | 95-98年4813ydはND史上最高。02年迄NFL所属 |
| RB | ジェイ・ウィッカーズ | 186cmと大型。98年デンソンの交代出場 |
| FB | マーカス・ソーン | 95年FBとして交代出場。現在は外科医 |
| FB | コール・ラオ | WOで交代FBに。03年主にST出場 |
| FB | ディーン・ライトル | 元DE。93年FB転向。190cmの大型 |
| FB | レイ・ゼラーズ | 95-98NFLセインツ。現デューケイン大RBコーチ |
| WR | ボビー・ブラウン | 97年2年時45捕球でチーム1の記録 |
| WR | リマ・マクナイト | 02年新人時より出場。4年間103捕球 |
| WR | ネイト・ショーマス | WOで02年3年時より交代出場 |

【守備】

| | | |
|-----|---------------|-----------------------------------|
| DT | メルヴァン・ダズビー | 97年主将。NFLアリゾナLBカルロスは従兄弟 |
| DL | マット・ハズブロック | ミシガン州立から03年4年時転校。188/125。WO |
| DL | クリス・フローム | 03年2年時より出場。4年時DE。196/118 |
| DE | カート・ビライヤ | 97年DE/LBで出場。188/120 |
| DE | ベン・フース | 94-95年DT/DEで出場 |
| DE | ドワイト・スティーンソン | 05-06年交代出場。父はNFLマイアミの殿堂入りC |
| DE | ダーネル・スミス | 96年4年時、DLのサード・チーム。196/123 |
| DE | ライアン・ロバーツ | 00年3年時よりスタート。通算10サック。188/117 |
| ILB | ジョー・プロキントン | 2年時STで頭角。06年スタート。59TKL。188/108 |
| OLB | アンソニー・ブランナ | 97年ST出場。現在はER等出演の俳優。183/83 |
| SLB | デリック・クーリー | 02-03スタート。03年66TKL、4.5サック。191/106 |
| ILB | マイケル・ゴールズバイ | 04年97TKL。NFLラムズ05年FA。193/110 |
| LB | ボビー・ハワード | 01-03NFLベアーズ在籍。178/104 |
| OLB | ブランドン・ホイト | 05年主将82TKL。06NFLベアーズFA。183/108 |
| LB | ミッチェル・トーマス | 05年STで活躍。191/108 |
| CB | ジェイソン・ベックストーム | 02年最終学年負傷。SSもプレー |
| CB | ジェフ・パリス | 94年1巡ビルズ入り、10年144試合をプレー |
| CB | シェン・ウォルトン | 03年5巡ラムズ入り、04年コルツでカット |
| CB | アンブローズ・ウッデン | 05年3年時全スタート。08年ドラフト指名されず |
| CB | アジャニ・サンダース | 00卒。ノースブルック高数学教諭でコーチ |
| DB | デブロン・ハーバー | NFLカロライナ(00)、セインツ(04)。AFL(05-06) |
| SF | ベニー・ギルボ | 98年卒。00年NFLジャガーズPS |
| SF | ロン・イズラエル | 03年CBでNFLミネソタFA契約。負傷でリリース |
| SF | ブライアン・マギー | 95年4年時SSでスタート。180/98の大型 |

【ST】

| | | |
|---|-----------|--------------------------|
| K | スコット・センジャ | WO。97年ハワイ大戦逆転FGは伝説 |
| P | ジェフ・プライス | 06年平均45.4ydsはND史上1位、全米5位 |

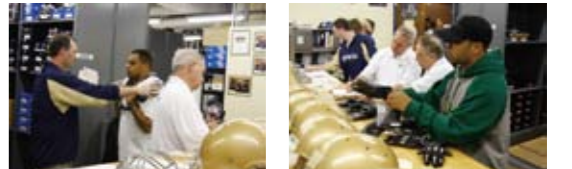
【補欠】()は最終学年

LB アブデル・バンダ(07) FB ケン・バリー(97) LB ジョー・フェラー(99) DT レジー・フルリーマ(95) ILB タイリオ・ハリソン(01) WR ジェイ・ジョンソン(00) LB ラロン・ムーフ(95) OLB ブライアン・モルベーナ(97) RB ティム・オニール(02) C グレッグ・ステック(94) WR ロバート・ウッズ(05)

【表中の略語】
 WO = Walk On: スポーツ・スカラシップ・アスリートではない自主入部アスリート ST = Special Team: キッキング・ゲームなどのスペシャル・チーム NFL = NFL EUROPE LEAGUE: 95~07年欧州で活動した春季プロフットリーグ PS = NFL Practice Squad: NFL練習生 AFL = Arena Football League: 室内プロフット・アリーナリーグ
 ※選手コメント末尾の数字は身長cm/体重kg(但し、現役時)



テストング・セッション翌19日の朝8時。ホルツ・コーチは選手らを前に、ファンダメンタル・フットボール・ポジションを力説する迫力で、ファースト・ミーティングに臨んだ

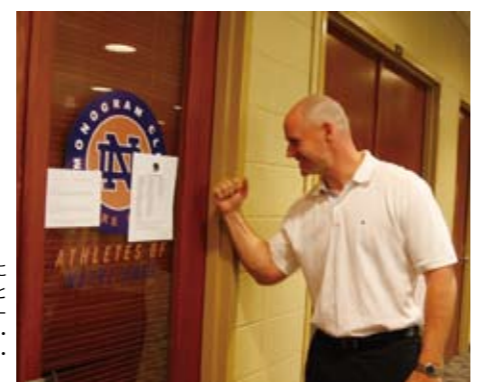


合格者は早速エキップメントのフィッティングを行う手際によさ。ワン・モア・ゲームに臨むために、ノートルダムの象徴であるゴールデン・ヘルメットを再びかぶることの幸せを噛みしめていた

ゲーリー・ダーネル守備コーディネーターによるフィルム・セッションは、昨Xリーグのファイナル6「鹿島ディアーズ対富士通フロンティアーズ」のカット・アップが素材に用いられた。ダーネル・コーチは92~96年にテキサス大アシスタント・ヘッド兼守備コーディネーターとして、07年W杯米国代表を率いたジョン・マコヴィック・ヘッドの下でコーチングに当たっていたことから、当時の日本代表戦略の傾向をマコヴィック・コーチから情報収集済みという周到だった



CBジェフ・パリス(36歳)へ、QB就任を説得していたホルツ・コーチ



ロースター・リストに自分の名があることを確認してガッツポーズを見せたDEカート・ビライヤ(98年卒・188センチ120キロ)

グネームの登場は十分ありそう。日本フットボール75周年の祝福に、史上最強の強敵が日本代表の前に立ち上がる。これが現実味を帯びてきた。

ノートルダム・ジャパン・ボウルまで3ヶ月を切った今、今後まだまだ元ファイティング・アイリッシュのピツ

「DBアンブローズ・ウッデン(03~06年)も高校時代にQB経験があるので候補の一人として考えた」としていたホルツ監督だったが、関係者に聞き出したところによれば、ノートルダム大在籍時の00~03年にQBとしてプレーし、最終学年にWRを兼任したカール・ホルダー(ドラフト外入団WRとして05~06年NFLアリゾナ、06~08年グリーンベイに所属)へ、FA契約が更新されなければという条件付きながら、打診を検討するといふほどだ。



07年W杯の日本代表チーム資料を元に作成されたスカウティング素材まで準備されていた